

平成 26 年 7 月 10 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 免 疫 生 物 研 究 所  
(コード番号：4570)  
本店所在地 群馬県藤岡市中字東田 1091 番地 1  
代 表 者 代 表 取 締 役 社 長 清 藤 勉  
問 合 せ 先 取 締 役 事 業 統 括 推 進 本 部 長 中 川 正 人  
電 話 番 号 0274-22-2889 (代表)  
U R L <http://www.ibl-japan.co.jp>

## アステラス製薬株式会社との共同研究の 進捗状況についてのお知らせ

当社とアステラス製薬株式会社（代表取締役社長：畑中好彦、東京都中央区、以下「アステラス製薬」）は、2013年12月25日付で「遺伝子組換えカイコを用いて生産されるヒト型タンパク質の医薬品への応用」に関する共同研究契約を締結し、遺伝子組換えカイコで生産した有用タンパク質を原料とした医薬品の製品化へ向けた共同研究を実施して参りました。この度、本共同研究における第一次ステップである有用タンパク質の性状に関する基礎検討を終了し、第二次ステップへ進展いたしましたので、お知らせいたします。

### 【概要】

- ・有用タンパク質の名称：「ヒト型フィブリノゲン」
- ・製品化へ向けたタイムライン：

	内容	状況
第一次ステップ (本共同研究)	性状に関する基礎検討	<b>終了</b>
第二次ステップ (本共同研究)	医薬品に向けた製造方法の検討等	当会計年度末までに終了予定
医薬品用途での 開発契約等の締結	本共同研究終了時、既定のマイルストーンが全て達成されたと判断される事が前提	要件を満たし次第、速やかに協議を開始
上市	ヒト型フィブリノゲンを原料とした医薬品の製品化	<b>2020年を目標</b>

当社とアステラス製薬は、遺伝子組換えカイコの生産系により、安全なヒト型フィブリノゲンの安定供給を実現させ、2020年頃に本製品を上市することを目指しております。

当社は、遺伝子組換えカイコの繭に可溶性のタンパク質を効率的に分泌させる生産系を開発し、更に日本製粉株式会社との共同研究によって、ヒト型フィブリノゲンを高効率で生産する画期的技術を開発しました。

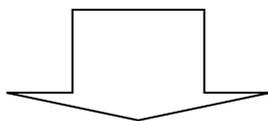
アステラス製薬は、「先端・信頼の医薬で、世界の人々の健康に貢献する」ことを経営理念に掲げる、研究開発型のグローバル製薬企業です。本提携は、アステラス製薬が推進する外部資源の更なる活用、および新基盤技術への取り組みの具現化となり、**本日アステラス製薬HP上において、今回の共同研究に関する情報が開示**されております。

※ヒト型フィブリノゲンに関する研究開発の一部は、平成 21 年度から平成 23 年度の間、農林水産省の委託プロジェクト研究「動物ゲノムを活用した新市場創出のための技術開発」において助成金を受けておりました。

フィブリノゲンは、血液凝固に関わる中心的分子であり、外科手術における組織の接着・閉鎖、止血などに使用されております。

2018 年には、フィブリノゲン含有製品の市場は**全世界で 1,000 億円超**に伸長すると予想されております。（出典：Evaluate Pharma）

**・フィブリノゲンは、複雑なタンパク質で微生物等での作製が困難であるため、現在、ヒト血液由来の製剤が使用されている。**



**・IBLは、カイコ繭からヒト型フィブリノゲンを効率よく作る画期的な作製法の開発に成功しております。**

**⇒カイコ繭から抽出されるヒト型フィブリノゲンは、ウイルス混入の懸念がない。**

**⇒安全なヒト型フィブリノゲンを安定してカイコ繭より大量生産が可能。**

以上